

ページを開けばすぐに物語が動きだし、会話だけ追っていけば話の大筋がわかってしまうという読者に媚びを売るサービス小説の対極にあるのが、エリザベス・ボウエンの作品だ。ボウエンは会話だけでなく、描写によってそこで何が起きているのかを示す。登場人物の行動、いる場所、そばにある物、聞こえている音、すべての描写を総動員させて、ボウエンは登場人物の発する言葉の背後にある気持ちや意味、それが発せられた理由となる過去を匂わせる。

だから、一行たりとも読み飛ばせない。丁寧に文章を追っていく読者だけが、ボウエンがそここに仕掛けている小説の技巧に舌を巻き、物語全体の絵柄が浮かび上がってきた時の喜びを得ることができるのだ。しかも、独特のセンスではあるけれど、ボウエンはコメディエンヌでもある。幽霊の出でこない幽霊屋敷ものの逸品と謳われる短篇「猫が跳ぶとき」(ミネルヴァ書房『あの薔薇を見てよ』所収)がわかりやすい。恐怖をしんしんと降り積もらせていきながら、ラストでボウエンは——。思わず吹き出してしまうのは、わたしだけではありませんまい。

豊崎由美

(書評家)

ボウエン・コレクション 2

【全3巻】

エリザベス・ボウエン／太田良子 訳

ホテル

第1回配本 2021年4月刊行予定 ISBN978-4-336-07102-6
定価:2,970円

友達と親戚

第2回配本 2021年5月刊行予定 ISBN978-4-336-07103-3

北へ

第3回配本 2021年6月刊行予定 ISBN978-4-336-07104-0

装幀:山田英春

—— 既刊 ——

ボウエン・コレクション

【全3巻】

エヴァ・トラウト

ISBN978-4-336-04985-8 定価:2,750円

リトル・ガールズ

ISBN978-4-336-04986-5 定価:2,860円

愛の世界

ISBN978-4-336-04987-2 定価:2,530円

ボウエン幻想短篇集

ISBN978-4-336-05512-5 定価:2,860円

* 定価は10%税込価
表紙写真 Victor Maljushov / on Unsplash

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 <https://www.kokusho.co.jp>
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427 e-mail:info@kokusho.co.jp

Elizabeth Bowen Collection ボウエン・コレクション 2

【全3巻】

エリザベス・ボウエン
太田良子 訳

20世紀英国文壇を代表する作家エリザベス・ボウエン。1920-30年代という戦間期の不安と焦燥を背景に、ボウエンならではの気配と示唆に浮かぶ男女の機微——。本邦初訳の初期小説三冊を集成した待望のコレクション。

国書刊行会

The Hotel

ホテル

第1回配本

ISBN978-4-336-07102-6

イタリア・リヴィエラ海岸のホテルはホリデー客でにぎわっている。医者になりたいシドニー・ウォレンは受験の疲れを癒しに、東の間ここにきている。彼女は倦怠感を漂わせる未亡人ミセス・カーに心惹かれる。ミセス・カーには20歳の息子ロナルドがいて、ドイツからここにやってくるという。ミルトン牧師、ロレンス三姉妹、第一次大戦の後遺症に悩む青年アメリックをまじえ恋がもちあがり……。イギリスの風習喜劇の雰囲気と1920年代戦間期の不安な心理を、地中海の陽光まぶしいひと夏に鮮やかに浮かび上がらせたボウエンの手腕、長篇デビュー作。



To the North

北へ

第3回配本

ISBN978-4-336-07104-0

エメラインは25歳、兄ヘンリーがセシリアと結婚して1年足らずで他界した機縁から、義姉セシリアとロンドンにあるフラットを共有し暮らしている。優雅で怠惰な未亡人のセシリア、マイカーを持ち旅行会社を営む20世紀のキャリアウーマンのエメライン。セシリアはイタリアから帰る急行列車の車中で、法廷弁護士マーキーと知り合う。世慣れたマーキーはまもなくエメラインに接近し、飛行機でパリに遊ぶ仲に。一方、セシリアは無難で裕福なジュリアンから求婚される……。エメラインは運転ができないマーキーを車に乗せて幹線道路を一路北へ、結末のカタルシスは？

Friends and Relations

友達と親戚

第2回配本

ISBN978-4-336-07103-3

スタダート家の長女ローレルとティルニー家のエドワードは朝から雨が降る日に結婚式を挙げた。ローレルの妹ジャネットは、エドワードへの想いを隠しメガット家のロドニーと結婚する。エドワードの母レディ・エルフリーダは5歳の彼を捨てた。コンシダイン・メガットとの不倫が露見し、夫が即離婚したからだ。ロドニーはこのコンシダインの甥で、広大なバッツ・アビーの後継者。スタダート家とティルニー家はこの「醜聞」を介して婚姻関係を結ぶ。10年後、姉妹2組それぞれに子供も生まれる。幾星霜を経てエドワードとジャネットの恋が再燃、その有様を子供たちが見ている……。

略歴

エリザベス・ボウエン (Elizabeth Bowen, 1899-1973)

300年続いたアングロ・アイリッシュの一族として、1899年アイルランド・ダブリンで生まれ、1973年ロンドンの病院で永眠した。二つの祖国を持ち、二度の世界戦争と戦後の腐爛を目撃し、10篇の小説と約100篇の短篇その他を遺した。ジェームズ・ジョイスやヴァジニア・ウルフに並ぶ20世紀を代表する作家の一人。最後の長篇『エヴァ・トラウト』はブッカー賞候補となった。

太田良子 (おおた りょうこ)

1939年東京都生まれ。東京女子大学文学部英米文学科卒、同大学院修士課程修了。ケンブリッジ大学訪問研究員、東洋英和女学院大学国際社会学部教授などを務めた。エリザベス・ボウエン研究会代表。今回のシリーズでボウエンの長篇をすべて翻訳。訳書にJ.ハーヴェイ『黒服』、E.ボウエン『リトル・ガールズ』『エヴァ・トラウト』『愛の世界』(国書刊行会)、『パリの家』『日ざかり』『心の死』(晶文社)他。

エリザベス・ボウエンについて

エリザベス・ボウエンは1899年にアイルランドのダブリンで生まれ、1973年にイングランドのロンドンで死去した。文字どおり20世紀と共に生きたボウエンは、二つの祖国を持ち、300年間イングランドの植民地だったアイルランドの宿命的な独立戦争、世界を荒廃させた二度の世界大戦に関わって創作活動の根底に置き、長篇小説10篇と短篇小説約100篇を書いた。今回の〈ボウエン・コレクション2〉に入った『ホテル』は彼女の初めての長篇小説で、先行の〈ボウエン・コレクション〉の『エヴァ・トラウト』はボウエンが完成させた最後の小説であり、ボウエンの小説全10冊が国内ですべて刊行されることになった。ボウエンの作品は21世紀の今、文学や歴史や世界観の新しい潮流を検証する意味であらためて評価が進む一方、ボウエンは緑の国アイルランドのホスピタリティと、美しい庭園を持つ荘園屋敷を受け継ぐイングランドの文化を愛して作品に籠め、移り替わる自然を、春夏秋冬、忘れられない美しいシーンにして数多く描き出している。白いモスリンのドレスの少女、断髪にして短いスカートでロンドンを闊歩する女は、それぞれに時代を表わし、ヒロインが運転するタイムラーやジャガーは、時代の先端を行く高級車である。小説や短篇のヒロインを通してフィクションが見せる広い世界の可能性を切り開いた点から見ても、エリザベス・ボウエンは他の追随を許さぬ作家である。

太田良子